



今だからこそ育てたい…白紙の未来へと進む力

園長 本多 郁代

「♪大人の階段昇る～ 君はまだ～♪」と、誰しも昔を懐かしく振り向く時はやがてやってくると思いますが、年長さくら組の二人は、どんどん新しいことを見付け、時の経つのも忘れるほど遊び込む日々を過ごしています。修了式を迎えるその日までこのまま進んでほしいと願っています。



そうは言いながらも、ともすると私たち大人は、小学校入学に向けて、身支度など様々な準備が短時間でできるだろうか、また、1時間目、2時間目という決められた時間の中で、集中して学習に取り組んだり気持ちを切り替えたりすることができるだろうか、心配もつきません。そして、ついつい「もうすぐ小学生なんだから～」と、早く何かができることや、指示通りに動くことができることを求めがちです。もちろんこれらの力は、今後集団生活をするために大切なものであることには相違ありませんが、それ以上に大切なことは、今しか体験できないことにとことん没頭することなのです。

子供は発見学習（体験活動とそこからの気づき）のあとに、完全習得学習（系統的にきちんと習得していく）の仕方を身に付けると言われています。これら二つの種類の学習の基本的なメカニズムは異なっていて、かかわる脳の部位も異なっているそうです。学齢前の子どもの注意の幅広さは、多様な物への興味が展開し、柔軟な学習を可能にします。そこに幼児期の遊びの意義があるのです。そして、その遊びを通した学びが白紙の未来へと進む力になります。



子供たちが考えた「わくわくマーケット」の「たこ焼き屋さん」は、注文する前にお客さんがくじを引きます。くじを引いて出た数だけお店屋さんがたこ焼きをおまけしてくれます。おまけのたこ焼きは、筒の中に入れたドングリがトルネードのように筒の中を進み、途中に設置した積み木を

ドミノのように倒し、倒れた積み木が次のドングリを転がして、おまけのたこ焼きを押し出して筒から出てきます。発想の斬新さと面白さに驚かされます。また、現在進行形のわくわくハウスは、二人のアイディアがたくさん詰まったお城ですが、毎日どこかが変化しています。



このように幼児期にたっぷり遊び込んだ子供は、やがて大人には考えもつかない発想で、まだ見ぬ仕事や働き方を生み出してくれることでしょう。これからも新しい価値観に出会いながら、自分らしい道を一步ずつ切り拓いていってほしいと思います。

